

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1271800516		
法人名	有限会社しあわせの家		
事業所名	グループホーム東金しあわせの家		
所在地	千葉県東金市堀上146-4 (電話)0475-53-1227		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月13日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】 (19年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 1人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	モルタル木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要 (3月 13日現在)

利用者人数	6 名	男性 2 名	女性 4 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 79.6 歳	最低 67 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斎藤クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東金しあわせの家は、大網、九十九里に続いて3番目のホームで、他のホームと人材・ノウハウの共有が可能となっています。閑静な住宅地の中の普通の住宅を増改築しただけに、6人の居住が可能のようにコンパクトで無駄のないレイアウトとなっています。居室、共有部分とも家庭的で過しやすい工夫がされており、食事も利用者の好みを十分汲み取って作られた献立で、全て職員の手作りです。味もおいしく、また、台所・食堂・居間が一部屋のため利用者が手伝える雰囲気にもなっています。周りの住宅の中に自然に溶け込んでおり、自然な形で外出し近隣との交流ができるようになっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果は今回調査時の月の初めに漸く届いたため、殆ど手が付いていない状況です。しかし前々回の結果改善が望ましいとされた事項は、ホーム便りの発行、本人の落ち着ける空間作り、玄関は日中には施錠しない、役所との積極的関わり、老人会等への参加、ボランティア等外部者の受入れも実現するようになり随分改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者が自己評価を行い、2割程度の改善の余地があるのかなどの認識にいたっています。毎日多忙ですが、ホーム長とともども力を合わせ、職員を巻き込んで気付いた点の改善に取り組む予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	具体的な問題があるときはもちろん、今後グループホームはどうあるべきかなどテーマを決め市役所の担当者、民生委員、家族代表、近隣代表を交えて話し合い、その結果に基づいて着実に改善の実現を図っています。本会議において、地域活動への参加を通じ交流を図りたい、非常災害時の協力を仰ぎたいとの提言を行ったところ、外部からの参加者の理解が深まり、老人会への参加、行政からの情報の提供等に結びついています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、毎月一回近況報告の文書を、又外出支援時やおたのしみ会の時の写真を送っています。実際今回の利用者アンケートでも近況報告や写真への言及があり、大変感謝されています。家族の意見の吸上げには、苦情相談窓口について掲示する他、各室に家族連絡ノートを置いていますが、書き込みはない状況です。事業所は現在の面談等による直接対応の他、別の手段として「ご意見ポスト」の設置を考えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅地の中の普通の住宅を改築したホームであり、町内掃除、ごみ収集後の掃除等に参加し円滑な互助関係を築いて、隣家等とケーキのやり取りをしたり、名前を覚えてもらって、散歩のときに気軽に話ができるようになっています。老人会等の地域活動にも参加し、また、教会の人達がハンドベルの演奏に来てくれたりと交流が進んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は5項目からなり、分かりやすく且つグループホームの運営上極めて自然なものとなっています。しかし、18年に新たに加えられた「地域住民との交流の下で」という観点からの理念はまだ掲げられていません。	○	日常生活の中で、地域との交流を目指した活動をするよう常に留意はなされていますが、職員全員が力を合わせて同じ目標に向かって活動し、成果を挙げるためには、地域住民との交流の下での生活実現のため、地域ニーズにあった理念を具体的に掲げることが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念については、皆が見やすい場所に掲げる他、パンフレットその他の書類にも記載しています。理念そのものはグループホームとしては当然かつ自然のものであるため、日々の業務の中でスムーズに取り組まれていることがうかがわれます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地の中にあるごく普通の住宅を改築した施設であるだけに、町内掃除、ごみ収集後の掃除を行う他、隣家等と例えばケーキ類のやり取りがあったり、名前も覚えて頂いたり、老人会等の地域行事への参加、教会の方たちがハンドベルの演奏に来てくれたり、という風に地域に溶け込んでいることが窺われます。	○	要介護度の高い利用者も多いのに対し、夜間は職員一人のみという風に、緊急時の対応には不安があります。そのような時は地域の方々の支援が欠かせません。ホーム長はじめ職員はこの点はよく認識していますが、「全職員が絶えず地元の人々との交流を心がける」は常に掲げるべき課題です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価表を作成することにより、2割程度は改善の余地があるとの認識にいたる等、改善意識の向上に役立っています。また、管理者はホーム長とともども改善に取り組んできました。他の職員へは3ヶ月に1回程度のホーム長との会議の時に改善への促しが行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	問題がある時だけではなく、今後グループホームはどうあるべきか等テーマを決め、市役所の担当者、民生委員、家族代表、近隣代表を交えて話し合い、サービス向上に努めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から市役所の方が積極的に出てきており、事業所側も、定例会議や「サンブエリアネット」、介護労働人材センター、社会福祉協議会の主催する様々な研修に参加し、スキル向上や最新の情報を得ながら、よりよいケアができるよう努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回近況を家族に手紙で報告しています、また、外出支援時やお楽しみ会の様子は写真を送付する様にしています。利用者アンケートでも、近況報告の手紙や写真を受け取ってうれしく感謝しているとの記述があります。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングに苦情相談窓口として代表の連絡先を掲示している他、利用者各室に家族面会ノートを設置し、気付いたことや感想を気軽に書き込めるようにはしていますが、実際には書き込みは殆どありません。	○	事業所は、意見を自由に出してもらえよう、「ご意見ポスト」を設置したいと考えています。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当運営会社は3ホームを運営しており、社長が3箇所のホーム長を兼務しています。ホーム長は職員が馴染みになってマナーに陥ることを防ぐため、適宜職員を異動させる方針です。利用者へのダメージは最小限になるよう配慮していますが、利用者調査では不満も漏れ聞こえます。一層慎重な配慮が必要なことはいうまでもありません。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は機会のある都度必要とする職員に受けさせています。内部では勉強会を開催する他、課題を職員に配布し、レポートを提出することにより情報交換・学びの場としています。ホーム長は常時居るわけではありませんが、携帯電話による「報告・連絡・相談」が実行できる仕組みにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会議で同業者との交流があり、種々のテーマについて問題解決を図りながらサービスの質の向上につながるように努めています。同業者との相互訪問も行っていますが、本音ベースの交流にならず、実際に役立つようなものにするのは難しいようです。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には1週間程度の体験入居が行えるようにしています。入居後も、利用者一人ひとりが使い慣れたマイカップ、マイスプーン、茶碗、湯呑みや箸等家庭的な食器を使っており、できるだけ違和感がないように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で生活リハビリを兼ねて、利用者が職員と一緒にできることをしています。人と共同して何かをやるという人生最大の喜びや励ましなどをもらってお互いに支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の異なる性格、趣味やこれまで生きてきた人生を尊重し、それぞれの人に限られた資源をうまく取り入れ、創意工夫しながらストレスを発散させる個別支援を実現しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族は、訪問時各部屋に備え付けられたノートに伝達事項や要望を書き込むようになっています。ただし、このノートへの書き込みは殆どありません。そこで、面会時に直接会話を行うことで家族の希望を介護計画に反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、毎日の記録に基づいて、現状に即した新しい介護計画を作成しています。また、利用者の状態の変化によっては、随時介護計画が作成されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族は、訪問時各部屋に備え付けられたノートに伝達事項や要望を書き込めるようになっています。しかし、実際にはノートへの書き込みは殆どないので、面会の時等に直接会話で対応することにより柔軟な支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り利用者が希望する医療機関を使っているということで、現在内科2ヶ所、精神科2ヶ所、眼科1ヶ所を利用しています。提携している近所の医療機関の往診の協力体制も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化していかない方向にするために、家族・医師と相談し全員で方針を決め、重度化する前に早い処置をするように努めています。ターミナルケアについては、医師の月11回の訪問診療や、家族の希望次第では事前に意向を汲み取り、看取りのケア体制作りを準備しています。	○	これまでこのホームでは終末期を迎えた利用者はいませんが、利用者が年齢を重ねるにつれてターミナルケアの必要性が増してきます。今から万全の体制づくりを準備していくことが当面の課題です。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけについては、ゆっくり、はっきりと利用者を元気づける穏やかな声かけを実践しています。幼児言葉を使用しないよう管理者から注意を促しています。個人情報、他人の目にふれない場所に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、職員の都合に合わせず利用者一人ひとりのペースに合わせて、利用者の気分・体調不良等を考え、細かい観察をしながら支援を行っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい雰囲気の中で食事がすすんでいます。食事を楽しむための支援ということを重視し、介助はさりげなく行い、また、その場で手作りの食事を提供しています。利用者は一人ひとりの残存機能を生かし、職員と一緒に配膳、下膳、片付けを行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日当日の直前には、バイタルチェックをおこない安全に細心の注意を行った上実施しています。	○	夏期の特に暑い日等には柔軟に対処しているとはいえ、現行の入浴回数については、前回の外部評価でも言及されています。職員の負担に考慮は必要ですが、回数を増やすよう努める必要が有ると思われま
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、配膳、下膳、片付け、洗濯物干し・たたみと利用者の得意とする役割を尊重し、場面づくりの支援をしています。また、花見、外食支援等積極的に取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブをADLに合わせて楽しんでいます。玄関の外に段差があるので、車椅子の利用者も外出は結構大変です。この段差の解消は、たやすいことではないようですが、一考の余地があります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室等には鍵は施錠されておらず開放されており、自由に入出入りできるように職員の配慮がなされています。ここには普段そのものの暮らしが有ります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署員の立会いの下、消防訓練を行っています。また、地域の人々の協力を得られるよう日頃から隣近所の方々との交流に意を用いています。ただ、災害時のための、水・食料・燃料等の備蓄は殆どありません。	○	保管スペースの問題がありますが、生活上の介護必要者を抱えているだけに、救援が来るまでの僅かな期間をしのげるよう、生命維持に最低限必要な物資の備蓄が望まれます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は、下膳時に確認し残滓量を業務日誌の個人バイタルチェック表に記録し把握しています。栄養バランスは、生活習慣病予防のために常に確認が必要です。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・台所が一室であるためかなり広い空間となっており、ダイニングテーブルとソファが置かれ自由に過すスペースとなっています。もともとそれぞれ利用者の好みの居場所は決まっているようです。また、季節の花を飾ったり、玄関先のプランターに花を植え利用者が管理しています。	○	玄関、浴室、便所の段差は気になる場所です。スペースの限られた空間であるため、理想的な形にすることは難しいことかもしれません。介護度の重度化が予想される中、可能な限り施設にとどまってもらうという事業所の方針も併せ考えれば、何とか知恵を絞って解消を図ることが望まれます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、可能な限り使い慣れたもの、好みのものを置くように配慮されており、押入れ等の収納場所もあるため、室内が雑然とならないように配慮されています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。